

日置地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日 時 平成28年10月19日(水) 19:00~20:30

2 会 場 日置地区公民館

3 出席者 地元出席者 37名

市側出席者 18名

深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、田中中核市推進局長、田中企画推進部長、久野地域振興局長、綱田都市整備部長、奥村上教育委員会事務局次長、森山危機管理課長、渡邊秘書課長

<青谷町総合支所>山本支所長、武田副支所長(司会)、秋田市民福祉課長、山本産業建設課長、中島水道局青谷営業所長

<事務局>岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、北村協働推進課主事

4 中核市移行についての説明

(中核市推進局長) ※チラシに基づき説明

5 都市計画マスタープランについての説明

(都市整備部長) ※チラシに基づき説明

6 地域の重要課題について

1 旧地区公民館敷地の有効利用について

<地域課題>

旧日置地区公民館を撤去し駐車場にして、体育館、グラウンド、あおや和紙工房、グラウンドゴルフ等、利用者の利便性を高めてほしい。

現在、上記施設の利用者は主に現地区公民館駐車場と旧地区公民館駐車場を使用しているが、

- ・現地区公民館からは遠い
- ・夜間、体育館に行くには、照明の無いグラウンドを通らなければならない
- ・旧地区公民館駐車場に6台しか駐車できない

など、利便性が悪い。

<担当部局の所見等>

【地域振興局】

現在本市が取り組んでいる地区公民館の改修等は、

(1) 安全安心のため平成31年度までに全地区公民館が新耐震基準(昭和56年以降)を満たしたものとなるよう、耐震改修や建替えを行う

(2) 地区公民館1階トイレの男女別化を図る

(3) 地区公民館事務室と大会議室へのエアコンの設置

について重点的に取り組んでいるところです。

旧地区公民館施設は、現時点で利活用案もなく、いずれは撤去するものと考えていますが、これについては重点事業完了後、施設の状態等（危険度）確認を行いながら、関係課と協議し判断したいと考えています。

（地域振興局長）

現在、本市には62の地区公民館があります。本市が取り組んでいる地区公民館の整備、改修等は、1つ目に、「安全・安心のため、平成31年度までに全地区公民館が新耐震基準を満たしたものとなるよう耐震改修、建替えを行うこと」、2つ目に、「地区公民館の1階トイレの男女別化を図ること」、3つ目に、「事務室と大会議室等へエアコンを設置すること」を重点的に取り組んでいるところです。旧地区公民館施設は、現時点で利活用案もなく、いずれは撤去するものと考えていますが、全体の地区公民館整備の重点事業完了後に、施設の状況と危険度と確認を行いながら、関係課と協議して判断していきたいと考えています。

2 日置地区グラウンドの整備について

<地域課題>

グラウンド表面を掘り起し、真砂土を入れ、排水をよくしてほしい。グラウンド表面に泥が溜まり排水が悪いことから、雑草やワカメ状の苔が繁茂し、滑りやすく、使用する時に危険な状態になっている。また、災害時の日置地区避難所や緊急時のヘリポートに指定されており、このような状態では用をなさない恐れもある。

<担当部局の所見等>

【教育委員会】

グラウンド面積は約3,800m²あり、問題解決には多額の予算が予想されること、またグラウンドの大部分が借地であり、暗渠等を施工する場合には地権者との協議を必要とすることから、早急な対応は困難です。

なお、土入れだけでは根本的な問題解決にはなりません、滑りやすい部分に絞り、現物支給で土ならしを行っていただく等の対応であれば可能であると考えます。

（教育委員会事務局次長）

直接の改善要望ではありませんが、グラウンドの水はけが悪いという声は教育委員会にもいただいていた。

日置地区グラウンドは、面積が3,800m²あり、全体を削って土を入れ、転圧もするとなると、多額の予算が必要になることが予想されます。また、面積の大半を占める約3,000m²が借地であることから、地権者と



の協議も必要となり、早急な対応は困難と考えています。

土入れをするだけでは根本的な解決にはならないと思いますが、滑りやすい部分に絞って必要量の真砂土を入れ、土均しを行っていただくなどの対応をとっていただけるならば、早急な対応は可能と考えています。

(地元意見)

借地であることは間違いありませんが、地権者はおそらく1人だと思います。本人は亡くなっておられて相続関係があるかもしれませんが、何十人も地権者がいるということはありませんので、努力はしてほしいです。

これは要望です。

7 市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

(地元意見)

地域づくり懇談会の冒頭に、都市計画マスタープランの見直しについて説明がありました。資料を見ると大変立派なことが書いてあります。2040年の話がしてありますが、今が大変な状態です。

免許を所有していない人がバスで青谷まで出るのに、バス代がいくら必要か知っていますか。往復で約800円です。免許証を返納すれば特権がありますが、もともと免許証を持っていない人は往復800円が必要です。本日渡された資料に、「駅南庁舎に“くらし110番相談窓口”があるので出てもらえれば相談に乗ります」と書いてありますが、高齢者ばかりなのに出かけられるわけがありません。あまりにも絵に描いた餅です。当初も、鳥取市に合併すれば良いことがあると聞いていましたが、西の玄関どころか、西の過疎地になってしまっています。

(深澤市長)

最初に、合併してもあまり良いことがなかったというご意見をいただきました。

日本は、2008年までは人口がずっと増加していました。1868年の人口は3,330万人でしたが、140年ほどかけて増加し、2008年には1億2,810万人にまでになりました。2008年といえば8年ほど前で、鳥取市が合併して数年後です。この時が日本の人口が一番多かった時で、それが今、急激に減少しようとしています。残念ながら、今後、右肩上がりですべて勢いがあってますます発展していくという状況にはありませんので、我々も考えなければならぬと思っています。

人口がどんどん減少し、高齢化が進行する時代をこれから迎えようとしている中で、どのようにまちづくりをしていくかを皆で考えていかなければならないことを、ぜひともご理解いただきたいと思います。

バスや列車の乗車賃も高く、なにが駅南庁舎まで行けるものかというお気持ちもよく分かります。これから高齢化がどんどん進むと、公共交通機関を維持・存続させることを考えていかなければいけないと思います。バス路線も、利用者が減ると採算が合わなくなり、バス会社が便を減らします。そしてまた不便になるので皆様が利用されなくなるという循環になっています。公共交通機関をいかに残していくかとのことで、本市でも、今いろいろ

るな取り組みを進めています。河原町、用瀬町、佐治町の鳥取市南地域については、大きな道路に定時的に大きなバスが走り、各地域で幹線から支線に乗り換えていただいて小さなバスを運行するという取り組みを、数年前から実施しています。現在は、国府町でも同様の取り組みをしています。他にも、地域の皆さんでNPO法人を設立され、小さいバスを運行されている所もあります。我々も、いろいろな形を考えていかなければいけないと思っていますので、そのあたりもご理解いただきたいと思います。

絵に描いた餅ではだめだどのご意見もいただきました。全くそのとおりだと思います。都市計画マスタープランなども、実際にまちの活性化や地域づくりにつながっていくものでなければいけないと思っていますので、ここはこうした方がよいのではないかとといったご意見は、どんどんいただきたいと思います。

(補足説明)

鳥取市内を運行している路線バス事業者は、下表のように低廉な高齢者向け定期券を発行しています。鳥取市では、それらをさらに定価の3割引で販売する事業を行っており、ご高齢の方の外出を支援しています。

なお、運転免許証を自主返納する70歳以上の方に対しては、下表のうち6か月定期券「グランド70」(定価25,700円)を2,000円で販売する事業も行っています。割引は1人につき2回まで、運転経歴証明書の交付日から1年間となっています。

高齢者向け定期券一覧

会社	定期券の名称	対象年齢	有効期間	定価	割引後販売額		対象路線
						1ヶ月あたり	
日ノ丸	架け橋	70歳～	6ヶ月	¥20,500	¥14,350	¥2,392	日ノ丸バス(県内全域) 乗合タクシー(南部支線、雨滝・上地線)
	因幡	65歳～	3ヶ月	¥11,300	¥7,910	¥2,637	日ノ丸バス(東部のみ) 乗合タクシー(南部支線、雨滝・上地線)
日交	シルバー悠々	65歳～	3ヶ月	¥10,200	¥7,140	¥2,380	日交バス(県内全域) 乗合タクシー(米里線、浜村青谷線)
			6ヶ月	¥17,400	¥12,180	¥2,030	
			1年	¥30,800	¥21,560	¥1,797	
共通	グランド70	70歳～	6ヶ月	¥25,700	¥17,990	¥2,998	上記すべて

(地元意見)

地区のことを一番知っているのは、地区公民館です。総合支所が小畑や河原の奥の方を知っているはずがありません。ですから、市ももう少し地区公民館を上手に使ってほしいです。とにかく地区公民館に行けば、良い話が聞けるというようにしてほしいです。

(深澤市長)

私もそのとおりだと思います。鳥取市は平成20年から協働のまちづくりを進めており、地域の拠点になるのが地区公民館だという位置付けで取り組んできているところです。今後もそういう考えで、地域の拠点として機能し、地域の皆様に親しんでいただける地区公民館であり続けるよう頑張っていきたいと思っています。

(地元意見)

少子高齢化や人口減少は全国的な流れで、国の人口も初めて減少に転じました。そういう時代なので仕方ありません。人口が減っても所得税を払う人が多ければよいのですが、先日、高齢者が増加して年金所得者がほとんどになり、所得税収入が減って、20年後には自治体が破綻するというシミュレーションが発表されていました。鳥取市はどうか分かりませんが、それでも20年後といえは我々団塊の世代は人生の終えんを迎える頃です。この地域が生き残るためには、今こそ、民間と行政が一体化した協働が必要ではないかと思えます。補助金補助金と言っている、いつまでも補助金があるわけではありません。受けられる補助金をいかに有効に活用していくかが問われるところです。

今できることから始めなければいけないと思えます。青谷町には5つの地区公民館と5つのまちづくり協議会があります。日置地区公民館と日置地区まちづくり協議会は、補助金の関係で別々の組織ですが、実態は同一行動をして地区の活動に貢献している、地区内最大の組織です。ただ、まちづくり協議会設立から10年が経過し、やはり最近はややマンネリ化しており、補助金を使うための活動をしているような感じを受けます。この補助金を潤滑油的に使っていくために、各家庭で作った農産物や加工品を地区で集約し、人の集まる所に施設を設けてもらって販売できないかと、個人としては考えています。今でも有志の方はしておられますが、一人でも多くの地区の皆さんに出品していただき、地産地消をしてほしいと思えます。また、従事されるまちづくり協議会の方々が、無償ボランティアはだめだと思えます。有償ボランティアにして、ある程度の報酬を得るような方式でなければ、この事業は続かないと思えます。補助金は人件費が対象外なので、売り上げの中から計上し、行政には無償の販売施設を提供してほしいので、よい所を探してほしいと思えます。

とにかく収入がなければ、地域は活性化しません。まちづくり協議会にやる気がなければ仕方ありませんが、もしも施設の提供ができればお願いしたいところです。

(深澤市長)

ご提言も含め、いろいろなご意見をいただきました。

今後、人口減少が急激に進んでいきます。昨年9月末に、鳥取市は人口ビジョンを作成しました。そして、国が推計している数字より減少しないよう取り組んでいこうとしています。所得税に関するお話をされましたが、年金、医療、その他の福祉にかかる国の昨年の予算ベースは約116兆円です。国の一般会計が約96兆円だったと思えますので、国の1年間の予算を上回るほどに、年金や医療や福祉に費用が必要ということになります。それを誰が賄うのかというと、やはり国民です。今は稼働年齢層がそれらを負担して何とか成り立っていますが、10年先、20年先には少し心配な面もあります。これは鳥取市だけではなく、国を挙げての大きな課題です。できる限り人口が減らないよう、また、地域の活力がずっと維持できるよう、いろいろなことをやっていかなければいけない、今はそういう非常に重要な時期にあると思えます。

農産物の生産、販売に関するお話をいただきました。行政で販売施設等を探すことについてのご提言もいただきました。

ご承知のように、鳥取市西部地域に道の駅を設置する構想があります。また、山陰道鳥取西道路も順次整備が進んでおり、2年後の平成30年にはかなり整備が進んでいくと考えています。この整備によって、間もなく、観光客など多くの皆さんに鳥取西地域を含めた鳥取市にお越しいただける時代がやってくると思います。鳥取道の道の駅「清流茶屋かわはら」でも、地元の皆様が農産物や地元の産物を出品されて販売しておられます。新しくできる道の駅もそういったことにご活用いただければよいのではないかと考えています。補助金についても触れられましたが、補助金頼りでなく、地元の皆様の知恵を生かしていただき、行政も一緒になってやっていくという形でなければ、これからはうまく進まないのではないかと思います。また、具体的にいろいろなお話をいただきながら、一緒になって取り組みたいと思いますので、よろしくお願いします。

(地元意見)

地域を活性化するのであれば、人を増やさなければいけません。増やすのはなかなか難しいので、大学等で鳥取市外に出た子ども達をいかに地元に戻すかだと思います。

私の子どもも、東京の大学から鳥取に帰らせました。孫も大阪の大学に行っていました。私の子どもに大阪の子育てと鳥取の子育てについて話し、孫も鳥取に帰らせました。

先ほどの発言の中で道の駅の話がありましたが、私も道の駅を意識して、81歳にしてぼろたんという栗を植えています。儲けにはならなくてもよいので、地域を混ぜ返す一人になりたいと思っています。人を増やすこと、いかにして子どもを帰すかということ、これを考えてほしいと思います。

(深澤市長)

大変素晴らしいお話をいただいたように思います。

鳥取市の人口が減少する原因を分析してみると、高等学校や大学を卒業される年代の若い方が、市外や県外に転出されて帰って来られないということが、数字上にはっきりと表れています。これを何とか食い止め、一度進学や仕事で市外に転出されても、将来は鳥取に帰ってきていただくことが非常に大切ではないかと思います。

以前は、「そう言っても、鳥取には働く所がないではないか」というご意見もよく伺っていましたが、ここ数年は、非常に将来有望な優良企業の進出が相次いでおり、今はむしろ、人材をいかに確保するかということが課題になってきつつあります。

そこで我々は、鳥取にも様々な優良企業が立地されているという情報を、学校とも協力して、高校生や大学生の在学中に情報提供する、また、場合によっては我々が直接出向いて説明して学生に認識を持っていただき、一度は進学等で市外に出ても、将来は鳥取市に帰ってきたいと思っただけのような仕掛けを具体的に進めていこうと、経済界や鳥取大学、環境大学と一緒に取り組もうとしているところです。

また、鳥取市役所の職員採用は主に20代の方を募集対象としていますが、もう少し高い年齢の方を対象にしたり、県外等で実際に仕事をされた経験のある方を対象にして、鳥取市に帰っていただいて市職員として勤務していただくようなことも、今後進めていこうとしています。

鳥取市には様々な職場がありますので、皆様のご家族や知人で鳥取市に帰ってこられる

ことを検討されている方がおられましたら、お声掛けいただければ大変ありがたいと思います。我々も、若い人に「鳥取は良い所だ」と、そして帰ってきて「やっぱり良いな」と思っただけのよう努力していきたいと思っています。

(地元意見)

私が大阪に住んでいた子どもを鳥取に帰らせる時には、大阪では自動車1台分の駐車場はこの程度必要だが、鳥取ならこの費用はかからないよ、など比較して伝えました。また、ただし1月から2月末までは悪いよと、悪い点も伝えています。

長男と同様、三男も鳥取に帰らせました。娘も県外に就職が決まっているのを、繰り返し繰り返し言って聞かせ、帰らせました。

以上は私の経験ですが、ランニングコストについて説明するのも良いかもしれません。

(深澤市長)

先日、日本銀行松江支店が計算され、大都会の方が給料は高いが、家賃や生活に必要な経費等が安く済むので鳥取の給料でも遜色ないという比較をされています。何よりも、自然環境も良く、子育てするのに非常に良いところではないかという評価をいただいています。

本市では、県外、市外から鳥取市に住んでいただくようにと、平成18年から移住定住に取り組んでいますが、昨年、移住・定住していただいた方の約8割が30代までの方でした。通算しても6割、7割の比較的若い方に、鳥取での生活を選んでいただいています。

この鳥取市の暮らしやすさ、住みやすさ、子育てのしやすさ、そういったものをもっとPRしていきたいと思っています。

(地元意見)

調べたところ、近畿大学や東京海洋大学などでは魚の飼育研究が非常に有名です。提案ですが、県立青谷高等学校とタイアップさせ、その上で県立青谷高等学校に市外からでも入学できるようにして、「獲る魚から育てる魚に」といったことが鳥取市の核とならないかなと夢見ています。

(深澤市長)

これからは資源を大切に、育てていく漁業に切り換えていくことも大切ではないかと思えますし、養殖や鳥取ならではの水産物等を考えて売り出していくことも必要だと思います。隠岐の島ではご提案のような取り組みをしておられ、水産高校に県外から入学してこられるという話も先進事例として聞いていますので、鳥取市でそういうことができたなら大変素晴らしいことではないかと思えます。ありがとうございました。

(地元意見)

先日聞いたところによると、青谷地区の高齢化率は4割を超え、5割に迫る勢いだということです。右を見ても左を見ても高齢者ばかりという状況です。先日、石破前大臣がある会合の中で、今、日本の人口は1億2,700万人だが、現在の出生率や死亡率から推

計すると、84年後の2100年には半分の5千万人、200年後には1/10の1,200万人、300年後には400万人になるという驚くべきことを言っていました。

このような状況の中、当地区も活力のある地域づくり、住みやすい地域づくりとして、地区公民館や日置地区まちづくり協議会が中心となって地域コミュニティの活性化に取り組んでいるところです。その中で、どうしても行政との連携、情報発信、情報共有が必要になってくると思います。

そこで、防災無線のデジタル化の移行に伴う課題について質問します。青谷町は当初、新しい防災無線システムは9月に供用開始とのことでしたが、突然、平成29年1月に延期するという文書が届きました。理由は、「子局の設置場所の決定等に時間を要している」とのことです。設置場所の決定「等」とあるが、それ以外に何かあるのですか。

(危機管理課長)

場所の決定に時間を要したことが一番大きな要因です。設置許可が必要な所であれば、関係機関との調整も必要になります。また、子局も電力供給等が必要なため、電力会社との調整等で今に至っています。遅れがちになり、大変申し訳ありません。

(地元意見)

いろいろな課題が出てきていると思います。そんな中で、本当に平成29年1月にデジタルに移行するのですか。

(危機管理課長)

私どもとしては、そのような予定で進めたいと考えています。

(地元意見)

戸別受信機の撤去については別途通知がくると聞いていますが、いつまで経っても通知がありません。

また、聞くところによると、撤去費用に二千数百万円の予算を計上しているとのことですが、高齢者に配慮した撤去方法を考えているかどうか聞きたいです。

(危機管理課長)

情報が十分に伝わっておらず、申し訳ありません。今後、総合支所と連携を取り、早い段階で皆様にお知らせできるよう努めたいと思います。

撤去にかかる予算については、ポールや空中線などは産業廃棄物であるため、処分に多額の経費が必要となります。

(地元意見)

戸別受信機が撤去され、放送が家の中で聞こえなくなることが一番の問題だと思います。音声放送は、行政と住民とを結ぶ極めて重要なツールだと思います。放送設備がないということは、高齢者に対する配慮がないことになります。また、高齢者だけでなく、サービスレベルの低下により、住民全体に不満が出ることも想定されます。ますます行政との

距離が離れていくのではないかと思います。

なんとしても音声放送を残してほしいです。音声放送の方向性が出るまでは、デジタル移行を延期してほしいです。現在と比較して、緊急放送が20秒、30秒早くなるということですが、20秒や30秒早くなっても大したことはないのではないかと、私自身は思っています。平成34年11月までは期限があるということなので、それまでに考えてほしいです。また、ケーブルテレビを利用した音声放送システムも検討する必要があるのではないかと思います。

(危機管理課長)

この防災行政無線は、「防災に係る情報を流す」ということで国に申請し、許可を受けているものです。デジタル化に伴い、改めて国に申請しますが、防災情報に特化して使用するという考え方でおります。地域コミュニティや高齢者に配慮した行政情報の伝え方については、別途検討をしています。

20秒、30秒放送が遅れても大したことはないのではとのご意見ですが、実はこの20秒、30秒の差を、私どもは非常に重要だと考えています。動ける時間が20秒、30秒あれば、例えば机の下に潜り込んだり、あるいは座布団を頭にかぶるなどの行動をとることができますので、それによって個々の命を守ることでできる時間だと思っています。少しでも時間を稼ぐ、すぐに対応ができる、そこにデジタル化の目的があることも、ぜひ、再度ご理解いただきたいと思います。

(地域振興局長)

鳥取地域と国府地域以外の7つの地域で、現在も、行政情報の伝達や地域情報の伝達に、防災行政無線が使用されています。それぞれの町に整備されている防災行政無線は周波数が異なりますが、デジタル化に伴い、周波数が鳥取市として一本化されるため、運用に一定の制限がかかることはご理解ください。

音声放送に慣れ親しまれている地域からは、同様の要望をお聞きします。現在、市の情報政策課や地域振興課、協働推進課や広報室などの関係部署が集まり、方策を協議しているところです。その中で、ケーブルテレビを活用することも一つの案として挙がっており、その他の方法も含め、こういった方法がよいか検討しています。

(地元意見)

住民の意見や、問題点も先延ばしされ、「行政無線ではない」というような考え方で移行するのであれば、最終的に問題点をどのように整理して運用する考えですか。

高齢者が非常に増加しているので、やはり音声放送は残す必要があると思います。そこを強く要望し、意見を求めます。

(深澤市長)

新しい防災行政無線への切り替えにあたり、行政情報や地域の情報が聞こえなくなることについて、我々はそのまま移行すればよいと思っていません。ただ、先ほど担当部署が説明しましたように、デジタル方式へは移行していかなければいけないと思いますし、何

よりも20秒、30秒の差が重要です。全国瞬時警報アラーム「J-ALERT（ジェイアラート）」も、1秒、2秒の差が大変大きいということで、例えば大地震が発生した場合に避難行動を取っていただくのには非常に効果が高いとされていますので、デジタル防災無線への切り替えは、ぜひとも進めたいと思います。

あとは、地域での行政情報等を、今後どのように確保していくかということになります。青谷地域は、ケーブルテレビの普及率も高い地域ですので、ケーブルテレビ網を活用した方法もあると思います。また、現在はICT技術が発達していますので、SNSなど様々な情報伝達手段もあります。FM放送などを活用する方法もあろうかと思っておりますので、現在、市役所内部で検討しているところです。

できれば、来年度には何らかの形で事業として予算計上でもしていきたいと考えています。

（総合支所長）

総合支所として、防災行政無線デジタル化のスケジュールを説明します。

なお、この内容は先日の自治連合会地区会長会で説明しており、今月末の区長文書で各戸配布する予定にしています。青谷町のデジタル化が市内で一番目ということもあり、少し遅れている面があり、申し訳ありません。

アナログ方式の現在の地域情報の放送は、11月15日で終了します。11月16日からはデジタル方式により、屋外子局から正午と17時にミュージックチャイムが流れるようになります。11月16日から11月末までの間、防災情報はデジタル方式とアナログ方式の両方を併用します。そして、12月以降はよいよデジタル放送のみとなります。

なお、アナログ方式の屋外子局と屋外放送設備は12月に撤去し、戸別受信機の撤去には1月から入る計画です。

（地元意見）

こういう形で進むということなので、もうどうしようもないのかとも思いますが、実際に平成29年1月から音声放送がなくなるわけです。もう方法は回覧しかなくなりますが、回覧も家族の誰かが見たら次の家に持って行ってしまおうので、家の人が全員見ないのが実態だと思います。テレビを見ろと言われても、私も見ませんし、高齢者も見ないと思います。

そんな状況ですから、ぜひ音声放送を残してほしいと思います。

これは要望です。

（地元意見）

日置地内、日置川の早牛から上小畑までの間の河床整備について要望します。至る所で土が溜まり、アシが茂っています。崖に木が生えて茂っている所もあります。特に、早牛部落の駐在を真っすぐ進んだ所から下手辺りに、土が大変溜まり、アシもとても伸びていて、中州のようになっています。その中州の中にも木が生えて大きく育っています。大水の時はとても流れが速く、何かが引っかかっていたりして本当に危険だと思います。整備してほしいです。

(総合支所長)

河川管理者は鳥取県です。総合支所も現地を確認して承知しています。早牛川と日置川の合流点に一番堆積物が多く、山根や河原の上の辺りまでの堆積状況も確認しています。

県もそういった状況は確認しておられ、「必要な箇所について河床掘削の実施を検討します。」と伺っています。なお、「実施時期については、予算の関係

上、他の実施予定箇所との優先順位を検討しますが、必要性は認識していますので、早期実施に向けて取り組んでまいります。」とのことでした。

総合支所としても状況を注視し、引き続き要望していきたいと思ひます。



(地元意見)

早牛の牛舎の所から下手の方がひどいと思ひます。堰堤の所などは1mほど、計画箇所より川の方が上がっているように思ひます。溢れることがあっても、おそらく舟山側の田んぼに溢れるとは思ひますが、とにかく非常に河床が上がっていると思ひます。

(地元意見)

合併が失敗だったとの話が出ますが、一つ合併して良かったことがあると思ひます。

昔、日置地区には150軒以上の紙すき屋がありました。今、合併して佐治町も同じ鳥取市になりましたが、日本中見回しても、同じ市に2か所も和紙を作る地区がある所はないと思ひます。鳥取市に合併して良かったと誇ってもよい文化だと思ひます。現在、佐治と青谷の和紙組合は、組合員が20名ほどになりました。20軒しかないということにはなりますが、20軒もあるという発想で捉えてもらえればと思ひます。

せっかく書道の文化があります。書道を小学校や中学校でだんだん教えなくなっていますが、何とか鳥取市だけは残してください。せっかく2か所も和紙の産地があるのだから、特区でもつくり、書道を盛り上げるような発想を持ってもらいたいです。

(深澤市長)

因州和紙の特産地である鳥取市ならではの取り組み方もあると考えています。この素晴らしい伝統工芸が今後も継承されていくよう、鳥取市としても全力で支援していきたいと思ひます。

因州和紙は非常に評価が高いです。私は、先週、韓国の東海市において、中国、ロシア、韓国、日本の環日本海拠点都市会議に参加しました。ここで様々な特産品を交換しますので、因州和紙のメモ帳を持参し、外国の皆さんにもお渡ししたところです。

国内のみならず海外でも非常に評価の高い、鳥取の誇るべき伝統工芸だと思ひますので、次の世代、また次の世代に継承していきたいと思ひます。

また、書道に関するご意見をいただいたことは、教育委員会にもしっかりと伝えたいと思います。ありがとうございました。

8 市長あいさつ

一言お礼のご挨拶を申し上げます。

大変限られた時間でしたが、非常に熱心にご意見、ご提言をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

防災無線のデジタル化移行の取り組み等についてもいろいろなご意見をいただきました。今、我々も来年度予算の編成に向け、このことを内部で議論しているところです。鳥取市議会にも相談しながら、また、議会からもご意見をいただきながら、この取り組みを進めていきたいと思っています。

地域づくり懇談会は2年に一度の開催です。こういう機会を持たせていただくことが少ないですが、この懇談会以外にも、いろいろな形で、総合支所を通して、あるいは本庁に直接、いろいろなご意見をいただければ大変ありがたいと思っています。これからも皆様と一緒に、将来を見据えて鳥取市のまちづくりを進めていきたいと思っていますので、どうぞよろしくをお願いします。

地域づくり懇談会に熱心にご参加いただいたことに、重ねて心から感謝申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。

本日は本当にありがとうございました。